

JAAF
MIE



三重陸協会報

第8号

一般財団法人
三重陸上競技協会

事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町510 (三重交通Gスポーツの杜伊勢内) TEL 0596-22-8890・FAX 0596-63-5337 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長 田村憲久



この2月に冬季オリンピックがお隣の韓国で開催されました。改めてスポーツの面白さ、素晴らしさを実感し、2020年の東京オリンピックへ向けて期待が膨らんできました。また、日本国内では天皇陛下の生前退位の日取りが具体的に決まり、時代が大きく移り変わろうとしています。

さて、三重県では「2018 彩る感動東海総体」(以下、三重インターハイとします)が半年後に迫って参りました。三重インターハイで陸上競技の会場となる、三重交通Gスポーツの杜伊勢・三重県営総合競技場陸上競技場が昨年10月上旬に完成し、準備万端というところでしようか。多くの全国の高校生がこの三重の地で躍動していただき、その高校生が東京オリンピックで活躍する姿を期待して

おります。審判員の皆様におかれましては新しい機器を使つての大会運営は様々な面で大変だと思ひますが、平成最後のインターハイが大成功を収められるよう、よろしくお願いいたします。さらに、インターハイの次には全日中、国体と全国大会が次々と控えています。「チーム三重」で一丸となり取り組んでいってほしいです。

文末になりましたが、前会長の豊田様よりこの三重陸上競技協会の会長を受け継ぎ、1年が経とうとしています。豊田前会長をはじめ、先達の方々が築き上げてきた三重県の陸上競技をさらに発展させるべく務めて参りました。この一年間を無事に終えることができますのも、ひとえに皆様のお支えがあつてこそだと思つております。この場を借りて感謝申し上げます。今後とも皆様のご協力を賜りたく存じます。

今後益々の三重県の陸上競技の発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

「全国インターハイ・全中・三重国体に向けて」

三重陸上競技協会 専務理事 松澤 一一一



2018年も早2か月が過ぎようとしております。今年是全国的に、例年になく雪の多い年となつておりますが、三重陸協審判員の方々には、益々ご健勝のことと存じます。今年、本県でインターハイが開催されます。暑い時期の大会開催になります。審判には大変厳しい時期と思ひますが、高校生の日本一を決める全国大会の運営に携わることが出来るのもこの機会しかありません。インターハイを迎える本県としましては、黙って指を加えているわけでもありません。一人でも多く三重県選手の入賞を目指して指導者の方々も例年以上に頑張つていまして、高校生のためにもご声援・ご協力をお願い致します。

さて、本年より4年間にインターハイ・全国中学陸上・三重国体と目白押しに全国大会が開催されます。全国大会と言えども普段の大会とさほど違いはありません。少し細かい事が多くなるかもしれませんが、三重陸上競技協会の大会運営には全国的に定評があります。普段と違つた「よそ行き」の審判をしなければ問題ありません。(普段とは少し雰囲気の違いがありますが)審判講習会等で毎年競技ルールの改修がありますが、改修されたルールを理解し、ロックでの共通理解を深めて頂ければミスのない素晴らしい大会になる事と思ひます。

また、以前より全国大会開催にあたり、三重陸協強化部と高体連・中体連が協力して選手強化をして来ました。三重県選手団の力を出せる環境づくりは審判員に任せ、選手は思い切つて試合をしてくれたら結果も付いてくると思ひます。今年の目標であるインターハイ。各学校の目標に向けた努力は評価に値するものと思ひます。向井専門委員長を筆頭とした三重県チームの意気込みを是非を見せて頂きたいと思ひます。ひ弱な高校生と感ずる事があるかもしれませんが、ひと冬で大きく成長し、

好記録を出してくれるものと思つております。大いに三重県選手団が活躍する勇姿を期待します。また、今年のインターハイに引き続き2020年には全中を控えております。中学校も今年のインターハイを契機に、雰囲気盛り上げ、中学選手の成長を期待します。先の2月の中学校練習会でも三輪中体連専門委員長を中心に指導者の意気込みを強く感じさせられました。全中大会に結果を残すべく取り組んで頂きたいと思ひます。

最後にありますが、2021年三重国体に向け、陸協強化部も鋭意選手強化に取り組んでいきます。山本(浩)強化委員長を中心に全国で戦える選手の勧誘と地元出身の選手強化を大学に協力して頂き着実に進んでおります。また、実業団チームのTN・デンソーの協力を頂き、

三重国体選手強化に向けた県外選手獲得に積極的に取り組んで頂いており成果を残しつつあります。三重という小さな田舎の県ですが、皆さんの英知と協力で大都市に負けない成果を残したいと思ひます。三重国体総合優勝に向け、三重陸協の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

各地区陸協報告

桑員陸協

1月の東員ロードレース大会を最後に本年度のすべての競技会が終了できました。皆様のご協力を感謝申し上げます。

平成29年度を振り返りますと、ソフト面においては地区内にあるN・T・Nの名倉千晃さんが愛媛国体において成年女子の部100mで優勝し、みごと三重県に貢献していただきました。また、中学生においては全国都道府県対抗男子駅伝競走大会で正和中学校の佐藤榛紀さん、女子駅伝で森田日世莉さんが出場いたしました。管内の中学生にとつてはとて喜ばしいことであり、小中学生にとつては目標となる選手になったと思います。今後も目標となる選手になるよう更なる飛躍を期待したいと思います。

小学校、中学校の低迷が続いている中、中学校では指導者の指導方法の標準化に向けてまた、桑員地区の底上げを目指すため指導者の資質向上を行うため合同の練習会を実施し、選手のみならず中学校の指導者への練習方法の指導をおこなっています。

来年のインターハイ、全中、国体と一人でも多く管内から入賞選手を輩出できるよう強化に取り組みたいと思います。

ハード面においては東員町ス

ポーツ公園陸上競技場が開場から25年経過し走路面などが傷み大規模改修が必要になってきています。しかしながら地方交付税の減額により町財政を圧迫しており大規模改修ができない状態の中で多くの方々に協力ご支援をいただきながら陸上競技場の改修をしていきたいと思っております。今後も粘り強く要望してまいります。

最後に、今後全国大会が開始されるに伴い、審判員数の減少化を食い止め、若い審判員の育成も急務とし、一人でも多く高校卒業者を審判員として登録してもらい、三重国体、三重インターハイ等で審判員として活躍できる審判員の育成をしていきます。

三泗陸協

1月に開催した三泗小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競技会をすべて無事終了いたしました。ソフト面では、小学生から高校生までのそれぞれの校種において多くの生徒が三重県代表として全国大会に出場し健闘してくれました。特に、冬の全国中学駅伝競走大会においては、昨年度に引き続き男子の部において川越中学が出場を果たしました。順位は9位と入賞にあと一歩およびませんでした。昨年度の入賞が続いて見事な走りでした。また、川越中

学、メリノール学院中学、四日市高校、四日市工業高校から各1名の選手が都道府県対抗駅伝のメンバーに選出されて健闘しました。また、全日本中学大会やジュニアオリンピック大会には地区内5つの中学から例年より多くの選手が出場を果たしました。ハード面においては、バックストリート側に砂場が増設される等2種公認競技場としての設備充実が図られてきました。また、2年前に完成したナイター設備のおかげで、中央緑地陸上競技場において夜間においても多くの人が学校や会社勤めの帰りに練習等に取り組んでいます。来年度もナイター設備を利用した長距離記録会を実施する予定です。また、今年の7月からはメ

イン競技場の隣に建設中のサブトラックが完成して利用が可能になる予定です。夏に全国高校総体のサッカー競技等が開催される関係で、競技場の特にフィールドを中心に利用が制限される期間もありますが、今後も四日市市のご理解・ご支援のもと陸上競技を愛好する方々に愛着を持っていただける施設になるよう取り組んでいきたいと存じます。

三泗地区の中学校において約半数の学校に陸上競技部がない現状をふまえ、今までもいくつかのクラブチームが、学校でクラブをしようとできない生徒たちを対象に熱心な活動を行ってきたおかげで一定の成果をあげてきてくれました。まだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上

競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいきたい所存です。小学校の普及については、クラブチームには所属していない子どもたちを対象に「走る・跳ぶ・投げ」の楽しさを体感してもらうことを目的に、本年度も昨年の11月に講習会を実施しました。中学校教員の指導者を中心に小学生の指導にあたりました。

四日市中央緑地陸上競技場においては、国体の開催に合わせて今後も改修工事が続きます。また、平行してかなり古くなった全天候走路の全面改修も予定しています。平成31年途中からは競技場の全面使用不可の期間が約1年予定されており、競技者の皆さんにはご不便をおかけすることになります。サブトラックの利用等工夫をこらしながら円滑な運営ができるように努めたいと存じます。

昨年10月から公認継続の工事にいったAGF陸上競技場が大幅に刷新され、いよいよ4月から使えるようになります。三重県下初のブルートラックになり、逆走ができるようバックストリート側にもスタート位置がつけられました。今年から三重県内で順次開催される全国インターハイ、全国中学校選手権、国体などの全国大会で、この競技場から育った多くの鈴鹿市出身の選手達が活躍してくれることを期待しています。

さて、本年度の活躍に目を向けるとロンドン世界選手権に衛藤 昂選手(白子中)・鈴鹿高専・味の素AGF)が出場しました。北京世界選手権、リオオリンピックに続き3年連続の日本代表です。自身の持つ県記録を2m30まで更新し、ダイヤモンドリーグパリ大会で8位に入賞するなど、世界のジャンパーの仲間入りを果たしました。愛媛国体では三重県選手団の旗手を務め3年連続5回目の優勝をし、日本のトップジャンパーとして東京オリンピックでの活躍が期待されます。

高校生では神戸高校の伊藤エリカ選手が全国高校総体女子ハンマー投げに出場し4位に入賞しました。

中学生では白子中学が全日中男子100mと400mR、全国中学駅伝に女子が出場しました。また、エコパトラックゲームで選抜編成したチーム鈴鹿の男子400mRでは従来の三重県選抜チームの持つ42秒94を大きく上回る42秒38の三重県新記録を樹立しました。鈴鹿市内中学校選抜チームでありながら日本中学歴代13位に相当する大変価値のある記録です。

これらの活躍も現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのたまものと深く感謝いたしております。特にAGF鈴鹿株式会社様には選手の確保だけでなく、小学生大会地区予選時に参加者全員にTシャツのご提供、通信大会では東海大会に進んだ中学生選手全員

にTシャツ、顧問にはポロシャツをご提供いただき選手共々チーム鈴鹿として大変モチベーションを上げることが出来ました。

今年度も鈴鹿陸協発展のために皆様のお力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

第26回「かめやま」江戸の道「シティマラソン大会」は1月14日(日)ゲストにリオ五輪に続き昨年ロンドンの世界陸上男子走高跳に出場されたAGF鈴鹿(株)の「衛藤 昂」選手、招待選手には市内出身で活躍している鈴鹿高専「金崎 舜」選手、明治大学の「樋口 大介」選手、神戸学院大学の「平山 璃奈」選手をお迎えし、897名の参加をいただき開催しました。前夜の降雪により路面凍結の場所もあり参加の皆様に変な迷惑をお掛けしましたが、会場内では憧れの衛藤選手や招待選手の姿を身近に見て、子どもたちは将来の夢をふくらませ、観客も多く駆けつけ大いに盛り上がりました。この大会は旧東海道の宿場町の面影を残す歴史街道を走る文字通り「江戸の道」マラソンとして定着してきました。近年、健康志向の高まりにより市民ランナーも増加しており、市民スポーツ推進の一つとしてこのシティマラソンを更に発展させていきたいと考えています。

昨年の競技会でも、亀山市で唯一小中学生の陸上クラブ「JAC

さて、本年度の活躍に目を向けるとロンドン世界選手権に衛藤 昂選手(白子中)・鈴鹿高専・味の素AGF)が出場しました。北京世界選手権、リオオリンピックに続き3年連続の日本代表です。自身の持つ県記録を2m30まで更新し、ダイヤモンドリーグパリ大会で8位に入賞するなど、世界のジャンパーの仲間入りを果たしました。愛媛国体では三重県選手団の旗手を務め3年連続5回目の優勝をし、日本のトップジャンパーとして東京オリンピックでの活躍が期待されます。

高校生では神戸高校の伊藤エリカ選手が全国高校総体女子ハンマー投げに出場し4位に入賞しました。

中学生では白子中学が全日中男子100mと400mR、全国中学駅伝に女子が出場しました。また、エコパトラックゲームで選抜編成したチーム鈴鹿の男子400mRでは従来の三重県選抜チームの持つ42秒94を大きく上回る42秒38の三重県新記録を樹立しました。鈴鹿市内中学校選抜チームでありながら日本中学歴代13位に相当する大変価値のある記録です。

これらの活躍も現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのたまものと深く感謝いたしております。特にAGF鈴鹿株式会社様には選手の確保だけでなく、小学生大会地区予選時に参加者全員にTシャツのご提供、通信大会では東海大会に進んだ中学生選手全員

にTシャツ、顧問にはポロシャツをご提供いただき選手共々チーム鈴鹿として大変モチベーションを上げることが出来ました。

今年度も鈴鹿陸協発展のために皆様のお力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

第26回「かめやま」江戸の道「シティマラソン大会」は1月14日(日)ゲストにリオ五輪に続き昨年ロンドンの世界陸上男子走高跳に出場されたAGF鈴鹿(株)の「衛藤 昂」選手、招待選手には市内出身で活躍している鈴鹿高専「金崎 舜」選手、明治大学の「樋口 大介」選手、神戸学院大学の「平山 璃奈」選手をお迎えし、897名の参加をいただき開催しました。前夜の降雪により路面凍結の場所もあり参加の皆様に変な迷惑をお掛けしましたが、会場内では憧れの衛藤選手や招待選手の姿を身近に見て、子どもたちは将来の夢をふくらませ、観客も多く駆けつけ大いに盛り上がりました。この大会は旧東海道の宿場町の面影を残す歴史街道を走る文字通り「江戸の道」マラソンとして定着してきました。近年、健康志向の高まりにより市民ランナーも増加しており、市民スポーツ推進の一つとしてこのシティマラソンを更に発展させていきたいと考えています。

昨年の競技会でも、亀山市で唯一小中学生の陸上クラブ「JAC

鈴鹿陸協

亀山陸協



〔シティマラソン：ゲスト、招待選手の皆さん〕



〔シティマラソン：1.5km小学生男子の部スタート〕

亀山」及びその出身者や市内の高校、中学の選手が県内の大会で優勝や上位入賞、また全国大会に出場するなど活躍してくれました。本人の努力を称えるとともに、日頃から健全育成も含め児童、生徒の指導に当たられている指導者や先生方に敬意と感謝をしている次第です。

また、「美し国三重市町対抗駅伝」で亀山市は昨年も入賞を逃しましたが、今年こそ入賞はもちろん過去最高順位を目指して出場しました。

小さな協会ですがシティマラソン大会の他に市内小学生の陸上競技会、スポーツ少年団体の駅伝大

会、市内の駅伝大会等を開催して

います。2月11日に開催した亀山市駅伝競走大会は今年で第64回となり歴史ある大会です。史上最高41チームの参加があり盛大に開催できました。これらの行事も地元亀山高校の生徒や先生方を始め各団体の指導者及び地域の方々の献身的なお手伝いをいただいで運営できており感謝しています。

今年はいよいよ全国高校総体、続いて平成32年の全中大会、33年の三重国体とビッグ大会が三重県で開催されます。活躍できる選手の育成にも各団体と連携を深めていきたいと思っています。

津陸協

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。

平成29年度を振り返ると、全国大会で植松直紀さん（スズキ浜松AC）、日本選手権男子ハンマー投、別所竜守さん（松坂商高、全国高校総体男子砲丸投）、前川昂輝さん（久居高、国体少年男子Aハンマー投）、魚住るりさん（西橋内中、全国中学校選手権女子200m）が入賞するなど、津市および津市出身の選手が活躍してくれました。

また、駅伝では津商業高校が3年連続で全国高校駅伝大会に出場しました。古保先生を中心とした指導者たちの熱心な陸上競技への探求と地道で懇切丁寧な指導によ

るものと思います。

昨年（29年）の津シティマラソンにゲストランナーとしてお迎えした岩出玲亜さん（一志中出身）は所属が変わりましたが、（野口みずき選手のようにオリンピックなどの世界の舞台で活躍してほしいという思いで）引き続き応援していきます。

津地区では、今年1月から市内の中学校が『みんなで強くなるうー』をスローガンとして、ときどき合同練習をしています。この取り組みが、津地区での陸上競技の普及・強化につながれば：と思っています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、29年度も鈴鹿、三泗、松阪、伊勢度会など多くの地区陸協様から暖かいご配慮をいただく中で、大会や記録会を開催させていただきました。心よりお礼申し上げます。

津市へ競技場新設の要望をさらに粘り強く継続して行い、いよいよ今夏となった高校総体、32年東京オリンピック・全国中学校大会、33年三重国体に向けて、小中高の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていく所存です。

松阪地区陸協

松阪地区陸協は規模が小さく、審判員等も決して人数が多いわけ

ではありませんが、各学校・団体の方々のご協力により今年度も多くの活動の実施や運営を無事に行うことができました。また、各学

校・団体の指導者の方々のご尽力

により、今年度も多くの成果をあげることができました。小学生チームの活動もさらに盛んになっており、県内でも活躍できる選手を多く輩出できました。また、中学生においても全国大会に多数出場することができました。数年前から松阪地区の小中学生と中学生全体の競技レベルの底上げが成功し、結果となって現われたもので

あると感じています。小学生と中学生が連携し、さらなる競技レベルの向上を目指していきたいと考えています。さらに、松阪商業高校や三重高校などを中心に高等学校においても全国大会に多数の選手が出場し、入賞を果たすなど大きな成果を残してくれました。

今年度は全国大会において床辺彩乃選手（松阪商業高）・別所竜守選手（松阪商業高）・豊田舞奈選手（松阪商業高）・西垣朱音選手（松阪商業高）・池上陽向選手（多気中）・山田真大選手（三雲中）が入賞し、活躍が目立ちました。地元の高校生の活躍や、元気な活動が地元の新聞などに大きく取り上げ

ていただくことも多く、中学生や小学生の選手や指導者のやる気をさらに増大させているように感じています。今後も松阪地区の陸上競技の普及をすすめ、さらなる強化に努めていきたいと思っています。

伊勢度会陸協

女子5000mで世界選手権やリオ・オリンピックにも出場した

尾西美咲さん（小俣中↓宇治山田

商業高校出身）が2017年度のシーズンをもって現役生活にピリオドを打つことになりました。度重なる故障にもめげず体幹トレーニングなどでそれを克服し、2013年度から2016年度まで5000mで日本選手権4連覇を達成するなど日本の女子中距離を牽引してくれました。地元の小中学生にも指導をしていただいたり、市町対抗駅伝でも伊勢市の代表として力を貸していただくなど多大なる貢献をしていただきました。今後も地元へ何らかの形でご尽力いただけるよう期待しております。お疲れ様でした。

また、昨年11月の全日本大学駅伝初出場をはじめ東海学生駅伝優勝で来年度の出雲全日本大学駅伝の出場を決めるなどの皇學館大学の活躍も見事でした。皇學館大学の学生の方々に競技実績のみならず、小学生の陸上教室の指導や南勢記録会の審判などにも協力していただいています。ただ強いだけでなく地元を大切にしていた

たく姿勢には伊勢度会陸協としていつも感謝しております。さて、来年度はいよいよ伊勢で全国高校総体が開催されます。ご存じのとおり陸上競技は8月2日に競技開始、6日に終了します。伊勢度会選手権は8月11日（土）・12（日）に実施予定ですが、剣道競技が12日まで練習会場として県営体育館を使用します。送迎の一部が使用されますので駐車場の

不足による交通渋滞が心配されます。そこをお願いですが、応援の方はもちろんですが、選手の皆さんもできるだけ公共交通機関を利用して競技場にお越しいただきますようにご協力をお願いします。

鳥羽志摩陸協

平成29年度は、鳥羽志摩地区の高校生の活躍が多くみられた年となりました。この活躍は、これまでの各クラブチーム、小・中学校での指導の賜物だと思っています。紙面をお借りし、指導者の皆様方にお礼申し上げます。

平成29年度の鳥羽志摩陸協の活動を紹介させていただきます。最初に紹介したい事は、昨年度から試験的に実施してきた「出前陸上教室」を本格的に実施することができた事です。志摩市の小学校と鳥羽市の小学校を各2校、志摩市の幼稚園2園を訪問し、児童や園児の皆さんに走る・跳ぶ・投げるの楽しさを感じてもらったことができました。

次に紹介したい事は、例年と同様に合同練習会や小学校教員の方を対象にした審判講習会・実技講習会を開催し、地域との連携も計りながら、陸上競技の楽しさを伝える活動ができた事です。志摩市・鳥羽市のそれぞれの小学校の記録会への審判を派遣する事もできました。さらに、現在、小学生のクラブチームのない鳥羽地区においても週1回の陸上教室を実施し、

たくさんのお小生が参加している

事です。

最後になりますが、毎年恒例となった国府の浜での砂浜やクロスカントリーを活用した冬季合同練習会につきましても200名ほどの地区内外の選手が参加し、盛大に実施する事ができました。

鳥羽志摩地区において、少子化の問題は他人事ではなく、児童・生徒数の減少に伴い小中学校の統廃合が進み学校数も大きく減少しました。その中でクラブチームに所属する小学生の人数は、5年程前と変わらないか若干の増加傾向にあります。これは、クラブチームの指導者の方々の努力の賜物であり、陸上競技への最初の窓口である、普及に力を入れてきたことが効果を発揮しているものと思えます。しかし、児童・生徒数はさらに減少の傾向にあり、いつ競技者が減少してもおかしくない状況にあります。

平成30年度は、「鳥羽志摩地区の選手育成に携わっていただいた皆様に感謝し、選手の普及・育成・強化、若手指導者の育成を進める事」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携を今まで以上に図っていく事」を柱に、一人でも多くの選手が1日・全日中、国体で活躍できるように活動を進めていきます。

伊賀陸協

伊賀市陸上競技協会では、今年度から新しい役員に一部改選されスタートし、競技役員確保や協

会運営の充実を図っています。毎年伊賀市にある小学校全体協力を得て行われている、平成29年度三重県陸上大会伊賀市予選会には、クラブチームを含め小学校区単位で400名余りの参加がありました。地区予選では県内でも参加人数トップクラスであり、この大会が伊賀市の小学校に根付いている証拠だと感じております。県大会でもクラブチームや小学校区単位でも多くの入賞者が出ました。中でも小学校5年生100mにおいて、ゆめが丘RCの児童が全国大会に出場し準決勝まで進むことができました。

また全国高校総体では白鳳高校の生徒が5000m・5000m競歩で、上野高校の生徒が7種競技で全国大会に出場しました。また高校駅伝では白鳳高校が14年連続29回目となる全国出場を決めました。

中学校においては緑ヶ丘中の生徒がC1000mで全国ジュニアに出場しました。この生徒も小学校時代から全国に出場し活躍してくれている生徒です。ただ市内中学校には、10校中2校しか陸上競技部がなく、小学校で実績のある児童が小学校で陸上競技をやめてしまう傾向にあり、クラブチームが強化・普及になんとかぎりぎり力を注いでいる状況になっています。

市内には県内でも有数の指導力・競技実績ともある指導者がいます。そのような優秀な指導者として市内全体として中学校の活性化を図り、全国総体はもちろん、

来る全中や国体に臨んでいきたいと考えております。

名張陸協

「念願叶って全天候型400mトラック完成・今年は記録会開催」

名張市陸上競技協会は、発足して早51年の歴史が経過しました。これもひとえに、先代の方々の努力の賜と思っています。しかし、その中の活動を振り返ると、名張市の行事と共に楽しんできたものばかりで、選手自身の育成、発展に繋がるものはありませんでした。そこで、一人でも多くの選手を県大会、東海大会、全国大会へと送り出したいと思い、陸協は名張市と共に、名張クラブというクラブチームで動きだしました。

名張クラブも発足して9年目を迎えました。このクラブは9歳から76歳の陸上愛好者が月曜日と木曜日の夜8時から10時までナイターの下で練習をしています。このメンバーの中には、今年、出雲駅伝を走った日体大の辻野恭哉選手や城西大の中舎優也選手が活躍しています。彼らは、大学を卒業しても現役を続行するという事です。心強いです。また、名張小学校6年生の永安正弥君が三重県選手権大会で優勝して全国大会に出場することができました。昨年度に比べて今年は大幅に記録を更新して三重県の小学生ではランキング1位(12秒44)の記録を更新しました。また、名張クラブは、身障者の方とも練習を共にして大阪マラ

ソンの夜8時から10時までナイターの下で練習をしています。このメンバーの中には、今年、出雲駅伝を走った日体大の辻野恭哉選手や城西大の中舎優也選手が活躍しています。彼らは、大学を卒業しても現役を続行するという事です。心強いです。また、名張小学校6年生の永安正弥君が三重県選手権大会で優勝して全国大会に出場することができました。昨年度に比べて今年は大幅に記録を更新して三重県の小学生ではランキング1位(12秒44)の記録を更新しました。また、名張クラブは、身障者の方とも練習を共にして大阪マラ



第4種公認トラック
トラック 8レーン
フィールド内 ロングパイ
ル人工芝
ナイター設備有り
投擲は砲丸投げのみ可能
平成33年三重国体はホッ
ケー会場
駐車場 500台・バス大
型4台 (収容)

今年度は、名張市陸上協会として6回の公認記録会を開催することを計画しました。
5月12日(土)
第1回名張市トラック記録会
6月2日(土)
県小学生名張地区予選会兼
中学校記録会
7月29日(日)
第1回ナイター記録会
8月11日(土)
第2回ナイター記録会
8月19日(日)
名張記録会兼市民記録会
9月29日(土)
第2回名張市トラック記録会

尾鷲陸協

尾鷲市は過疎化地域であり、かつ、少子化も進み、陸上の競技人口も徐々に減りつつあります。しかしながら、尾鷲市の中では陸上は人気のある競技であり、多くの小学生が少年団に入団し、陸上競技を行っています。
今年、三重県で全国インターハイが行われることもあり、尾鷲陸協としては、一人でも尾鷲市から全国インターハイで活躍できる選手が現れることを期待しています。

競い合いました。この陸上競技場は緑石を取り払って、将来的には車いすレースができるように全てがバリアフリー化で工事を進めてきました。
この陸上競技場で、公認記録を認めてもらうために名張市陸上競技協会では、20名以上の審判員が必ず必要だということと昨年は、名張クラブのメンバーに依頼して三重陸上競技協会が主催する審判講習会にも参加していただき審判資格を取得しました。
常に陸上を愛し、向上心を持って名張市の為にみんなが結集して共生社会に向けて頑張っている昨

尾鷲陸協では、特に小学生の育成に力を入れています。小学生には様々な大会に一人でも多く参加してもらえよう、また、地元地域の大会にも積極的に参加し、活発に活動するよう働きかけています。陸上の大会だけでなく、スポーツに関するイベントが開催されれば、地方にも向きそのイベントにも参加し、様々な経験を積ませて人間的にも成長していけるような活動を行っています。

また、陸上競技を行っている選手だけでなく、尾鷲市民が誰でも参加できるように大会を開催し、また、新たに競技会を設けて、地域の活性化と埋もれた選手発掘を行っていくことも考えています。尾鷲市民だけでなく、周辺地域の陸上競技者との接点を持つよう、当陸協主催の大会に周辺地域の方々にも参加していただけるよう積極的に働きかけています。

小学から中学、中学から高校と陸上競技を継続して続けてもらえるような楽しい環境づくりが大切であると考えています。

まだまだ小さな組織ではありませんが、少しずつ今できることを積み重ねて地域に貢献できるように努めていきたいと思っています。

北牟婁陸協

極小規模な北牟婁陸協ですが、今年度も明るい話題がいくつかありました。一番大きな話題としては、三交Gスポーツの杜伊勢陸上競技場のこけら落としとなっ

た「東海高校新人大会」において、九嶋大雅（伊賀白鳳高校2年「紀北中学校出身」）が3000m SCで、また濱口紀子（松阪商業高校1年「紀北中学校出身」）が100m Hでそれぞれ見事に優勝を果たし、来年度の地元三重1日に向けての活躍が楽しみになったことです。

二番目に大きな話題としては、「県中学陸上大会」において、潮南中学校3年の鍋倉海斗が400mで優勝を果たしたのを始め、紀北中学校からも2名の入賞者を出すことができたことです。近隣の尾鷲中学校からも入賞者が複数出て、久しぶりに陸上部のある地元3校全てから入賞者を出すことができたことは、非常に画期的なことだと思っています。

また、昨年度「美し国三重市町対抗駅伝」において3年ぶりに入賞（6位）を果たした紀北町です。今年度は10区の市町通じての区間記録を保持している山口祥太（富士通）が、8年ぶりに紀北町チームで出場することとなったので、第3回大会以来となる3位入賞を目指してムードが高まっていることも明るい話題だと思えます。

強化普及の面については、県の強化練習会や他地区の練習会への参加、合同練習会の実施、尾鷲高校の垣内元宏先生が指導する紀北ACの活動、小学校への出前授業の実施等に対応しているところです。今後も、明るい話題を少しでも多く提供できるように頑張っ

行きたいと考えております。

熊野陸協

本年度、熊野市木本中学校出身の清水剛士選手（NTN）が、日本選手権で3位に入賞しました。東京オリンピックをめざして活躍しています。11月に、母校で講演会&練習会をしていただきました。南牟婁郡紀宝町矢測中学校出身の高見澤安珠選手と並び、地元出身選手の活躍が大いに、小学生・中学生・高校生の刺激になっています。

本年度、小中学生では、通信陸上大会は中道友菜（有馬中2年）



が2年100mで6位、県中学生大会では、前川凌汰（飛鳥中）が110m Hで5位・森倉康太（飛鳥中）が7位に入賞しました。

また、高校へ進学後も陸上競技を続ける選手が増えてきました。来年度の、三重インターハイでの活躍が楽しみです。

2018年1月現在、熊野RCには小学生・中学生・高校生合わせて74名が在籍しています。

練習は、毎週土曜日の夕方に熊野市営グラウンドや山崎運動公園で、毎週水曜日の夜には木本中学校グラウンドで行っています。また、随時、木本中学校グラウンドで高校生・中学生が中心にナイター自主練習も行っています。さらに、毎週火曜日を中心に、「熊野マラソン塾」と称して、美し国三重市町対抗駅伝長距離の選手を中心に長距離走の練習をしています。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」「テーピング教室」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。陸上部のある中学校・高校が少ないこと、指導者が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生と継続的な指導ができるようにしています。

今後も、熊野市南牟婁郡地区で陸上競技の輪を広げられるように、熊野陸協として「熊野RC」を軸に活動していきたいと考えています。

昭和48年

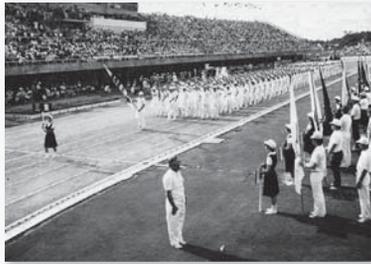
三重インターハイおもいで写真館



800m瀬古選手 優勝の瞬間



選手宣誓



三重県選手団入場行進



開会式 県営陸上競技場全景



熱戦続く陸上競技



円盤投井村選手 優勝



200m福田選手 ゴールの瞬間



1600mR宇治山田商 優勝バトンタッチ

各委員会等報告

競技委員会

JAAF THE

今年、いよいよ全国高校総体を皮切りに、全日本中学・国民体育大会と全国大会が目白押しとなります。日頃、三重県の審判運営については、高い評価を他府県の皆様よりいただいておりますが近年、全国大会クラスの大会については、愛知県など周辺の各府県陸協が、数多く全国大会を開催・運営されています。

三重県は久方ぶりの全国大会開催となりますので、十分な準備で大会運営を行い、成功へと運びたく考えています。

高校総体の競技運営については、選手数の多さ、監督コーチ等付添人数の多さなど、人の多さが群を抜いていますので、それらを踏まえた準備・対応が必要です。また、ルールに精通している方も多く、指摘を受けることも多くあります。無理難題を吹きかけてくる場合もあります。

全国高校総体用の運営マニュアルを各部署で作成済みです。これらを基に、大会運営をよろしくお願い致します。

ルール改正により、いくつかのルール改正があります。新ルールを熟知し、旧ルールにとらわれないうように、審判員皆様の資質向上を

いただきたく存じます。

強化委員会

JAAF THE

日頃は強化委員会の活動に、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

平成29年度の国民体育大会(愛媛)は世界陸上ロンドン大会に出場を果たした衛藤昂選手(AGF)の国体3連覇、成年女子1000mで見事初優勝を果たした名倉千晃選手(NTN)を含む8種目に入賞。天皇杯得点は52点の第18位、皇后杯得点は25点の第24位という成績でした。

都道府県対抗駅伝では京都で行われた女子が第28位、広島で行われた男子は第35位でした。特に女子では現役ラストランの尾西美咲選手(積水化学)が冷静なレース展開で順位を4つ上げ、4位でたすきをつないでいただきました。

高校時代、インターハイに出場を果たしながらも、予選を通過することができなかった彼女が、のちに5000mで日本選手権4連覇、オリンピック、世界選手権にも出場を果たし、我々に大きな感動と勇気を与えていただきました。これまでの功績に敬意を称したいと思います。

強化委員会といたしましては、

いよいよ3年後にせまった三重国体に向けて実動していかねばなりません。そのためには成年、少年と2本立ての強化対策を進めていきます。成年対策としては本年度中にいよいよ鹿児島・三重の種目が確定します。それをもって、成年の現戦力の維持と新戦力の補強が必須です。また少年A種目では、

高校の強化指定校を中心に、例年以上の徹底的な強化を施します。少年B種目は、国体前年度の三重全日中の中学2、3年生が三重国体の少年B種目(中3、高一)に直接つながるため、三重全日中の成功を第一目標とし、その後につなげていきます。

今後は各選手、指導者の自覚とやる気が必要となります。大きな成功をおさめるためにも今後のご理解とご協力よろしくお願い致します。

競技場がリニューアルされ、舞台は出来上がりました。あとは選手がどれだけのパフォーマンスを發揮してくれるかです。新記録続出と我々を喜ばせてほしいものです。東京オリンピックの余韻を残しながら開催される全日中・国体は楽しみのひとつです。

いよいよインターハイは秒読み段階に入りました。勝ち上がりで開催される大会としては日本最高

ご協賛をいただいた企業

- 学校法人 高田学園
- 桑名スポーツ
- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- ぎゅーとら
- NTN 株式会社 陸上競技部
- 株式会社デンソー 陸上競技部
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックスジャパン
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマージャパン
- 岐阜経済大学
- 皇學館大学
- AGF 鈴鹿株式会社
- 日本体育施設
- ミズノ株式会社

(敬称略)

日本陸上競技連盟栄章

愛媛国体期間中、2016年度優秀指導者等の表彰が行われました。

- ◇ 秩父宮章
 - 古西敏彦
- ◇ 高校優秀指導者
 - 時田潤也 (亀山高校)
- ◇ 高校優秀競技者
 - 塩澤稀夕 (伊賀白鳳高校)
- ◇ 中学優秀指導者
 - 泉恵子 (玉城中学校)
- ◇ 中学優秀競技者
 - 藤本大輝 (一身田中学校)

峰の大会ではないかと思われま。選手の為に何が出来るか、三重陸協は絶えず考えてきました。選手・審判・観客が一体となり、他県の選手には、その感動を持ち帰ってほしいと願っております。

それ以上に地元の選手諸君は利を生かし、ひとつでも高い表彰台を目指し、後世にまで語り継がれるようなドラマを演じてほしいと願っております。がんばれ三重！

情報委員会

JAAF THE

競技場がリニューアルされ、舞台は出来上がりました。あとは選手がどれだけのパフォーマンスを發揮してくれるかです。新記録続出と我々を喜ばせてほしいものです。東京オリンピックの余韻を残しながら開催される全日中・国体は楽しみのひとつです。

今年度も普及委員会の活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

重点目標に掲げ取り組みを進めてきました。

中でも県内の小学校を訪問し、授業の一環として実施した「キットアスリートin陸上教室」では、皇學館大学陸上競技部の学生にア

シスタントとして、デモンストラーションや児童の指導にあたりてもらったことで、タレント発掘だけではなく、次世代の指導者に向けての動機付けにもつながったと思われま。

8月には皇學館大学にて、「JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会」を開催しました。同大学の学生を中心に県内外から約50名が参加し、「走・跳・投」の基本技術を中心にその指導方法を熱心に学び、2021年の「三重とこわか国体」に向けて指導力向上を図る有意義な講習会となりました。なお、「JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会」については、より多くの学生や指導者の方々に受講していただくよう、今後も隔年で開催していきたいと考えています。

普及委員会

JAAF THE

また、12月に皇學館大学で開催された日本スプリント学会サテライトイベント「日本トップアスリートからのアドバイス」では、ロンドン世界陸上銅メダリストの藤光謙司選手・飯塚翔太選手を講

師に迎え、参加した県内約400名の子どもたちは、大いに盛り上がりました。

来年度以降もたくさんの子どもたちに夢を与え、陸上競技に対する意欲や興味・関心を高めるとともに、「選手の可能性の広がり」を大切にし、息の長い選手の育成のために努力してまいりますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

① 日本陸上競技連盟競技規則に従い、公式の競技会を開催し得る、陸上競技場および長距離走路ならびに競歩路の公認検定作業を行う。

② 競技場の施設が、「公認陸上競技場および長距離走路ならびに競歩路規程」の各条項に基づき、競技の実施が可能かを確認し、もし不都合があれば管理者と折衝して整備の依頼をする。

③ 用器具が規格に合致しているか

技術委員会

JAAF THE

今年度も普及委員会の活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

重点目標に掲げ取り組みを進めてきました。

中でも県内の小学校を訪問し、授業の一環として実施した「キットアスリートin陸上教室」では、ロンドン世界陸上銅メダリストの藤光謙司選手・飯塚翔太選手を講

師に迎え、参加した県内約400名の子どもたちは、大いに盛り上がりました。

来年度以降もたくさんの子どもたちに夢を与え、陸上競技に対する意欲や興味・関心を高めるとともに、「選手の可能性の広がり」を大切にし、息の長い選手の育成のために努力してまいりますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

を確認する。

- ④ 競技会では、トラック、助走路、サークル、円弧、角度、着地場所等が正しく整備されているかを確認し、得点表、成績表、記録表が用意されていることを点検する責任を負う。
- ⑤ 競技進行中は、全般的に観察し、絶えず審判長や総務と協議を重ね競技の円滑な進行を図る。

【競技場および長距離走路の公認終了期日】

- (1) 三重交通Gスポーツの杜伊勢1種(クラス2)
2012年3月30日
- (2) 三重交通Gスポーツの杜伊勢(補助)3種
2021年4月10日
- (3) 三重交通Gスポーツの杜伊勢(投てき場)
2021年4月10日
- (4) 四日市中央緑地(陸)2種
2018年7月検定予定
- (5) 〃サルビア(10km)
2019年3月14日
- (6) 伊賀市上野(運)(陸)4種
廃止
- (7) 東員町スポーツ公園(陸)3種
延期届申請中
- (8) 〃付属長距離走路(10km)
〃
- (9) 鈴鹿市石垣池公園(陸)3種
2018年3月検定予定
- (10) 伊勢ハーフマラソン(ハーフ・10km)

2020年5月31日

- (11) 名張市民陸上競技場4種
2022年3月

※競技場の新規公認及び継続の時、申請者は公認期間が切れる3か月前より、申請書を提出できます。尚、公認を廃止にする場合は、必ず廃止届を日本陸連に提出して下さい。公認期間は、5年間です。

※各地区でシテイマラソンの企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が走る場合、自転車計測でないと公認が認められません。長距離走路の作成や、新規陸上競技場を設置する場合は技術委員会までご相談下さい。



本年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度も、小学生から一般全ての年齢層の大会を対象に、昨年度同様、競技場改修に伴う大会会場変更等の中の活動となりましたが、年間12大会延べ20日間(うち2日間悪天候で中止)、現場でのトレーナー・救護活動を行ってまいりました。

また、年間5回開催しましたスキルアップ講座には、多くのトレーナーが参加し、テーピング・コンディショニング等の知識・技術の向上を図ってまいりました。

そのうち、各県内大会につきましては、サブトラックでの開催がほとんどで、選手が工夫しながらの出場であったにも関わらず、本年度は大きな事故・怪我等も無く、各役員及び審判員の方々と共に安全で安心な大会運営に協力でき、来年度も継続して参りたいと思います。

また、本年度も日本陸連より、例年注意喚起のある熱中症対策に加えて、選手の貧血症状に対して安易な薬剤の摂取についての注意喚起もあり、特に対象と思われる年代以上の指導者への通達も行いました。それ以外の年代の指導者の皆様も、貧血に関しての正しい知識を学んでいただき、安易な薬剤の使用は、後々のその選手の健康を損なうことにつながる可能性が大であることをご承知いただきたく思います。

それから、他県ではありますが、高校生が練習中に投げたハンマーが他の生徒に当たるといふ衝撃的で悲しい事故も起こりました。各指導者の皆様方は、常日頃から練習での安全面の徹底はされていると思います。ただ、選手は練習に没頭しますと危険の予見力が下がってしまうのも事実ですので、悲しい事故を防ぐためにも、より一層安全に対しての注意喚起をお願いいたします。

来年度も今以上のスタッフのスキルアップを図り、選手の方々が安全で安心して臨める大会づくり

に尽力して参りたいと思います。

尚、来年度は、新競技場の施設を使った活動となります。トレーナーセッションは、新競技場トレーニングルームに開設させていただきます。どうぞお気兼ねなくご利用下さい。スタッフ一同お待ちしております。

これからも、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。



※今年2018年度(平成30年) 全国高校総体、
『準備7/31火・8/1水、競技会8/2木・8/6月(三重交通Gスポーツの杜伊勢)』
皆さんご予定ください。

平成30年度は、全国高校総体にむけ、三重陸協総力をあげて、準備をしなければなりません。

審判員の資質向上・審判配置の再考・運営準備等ご無理をお願いしなくてはなりません。何卒ご協力をお願いいたします。

また、今年度は、審判員にボディバックを配布いたします。(学生審判は除く) インターハイでは、帽子・ポロシャツ・ベストが実行委員会から支給されます。

2018年度(平成30年) 全国高校総体、2020年度(平成32年) 全日本中学選手権、2021年度(平成33年) 国民体育大会へ

向けて、必要な競技役員を確保するためにみなさまのご協力をお願いいたします。

(特に学校の副顧問の先生にも審判登録をしていただきたいです。)

2017年度 公認審判員数

審判種別	男	女	計
S級	41	1	42
A級	95	8	103
B級	329	94	423
合計	465	103	568

(2017年12月31日 日本陸連報告資料)



「いよいよ二度目のインターハイ・・・」

あと150日余りで二度目の全国高校総体が三重県にやってきました。昭和48年大会の大成功は、今なお、私たちにかけがえのない財産を残してくれています。新装なった競技場での45年ぶりの大会は私たちが次世代に大きな感動と新たな財産を伝える絶好のチャンスです。

今回の全国高校総体では、三重陸上競技協会のモットーである「競技者第一(アスリートファースト)」をより鮮明に打ち出しています。「高校日本一を決める」にふさわしい競技日程になるよう工夫を凝らしています。具体的には、100mと走幅跳のように

関連性が高い種目はどちらも出場できるように設定し、砲丸投と円盤投の開催期日は離れすぎないように配慮しました。混成競技とハードルも両種目ともに実力が発揮できる日程を組み、長距離種目の炎天下での実施は極力少なくしつつ、毎日の競技終了時刻をできる限り早くして、翌日の競技に支障が少なくなるように配慮しました。競技だけではなく、種目別の表彰式もより充実したものにすべく、トラックの内側に表彰台を並べ、観客と一体になって競技場全体で盛り上げたいと考えています。

質の高い大会運営は、三重県が長年に渡り培ってきた得意分野です。松本彦丸先生や出口秀行先生を中心とした通告(アナウンス)は今のような効果音やトランシーバーが普及する前に、見事なタイミングでの確に大会を進行していました。声のトーンも素晴らしい。当時の通告は競技者にとっても観客にとっても心地よいものであり、間違いなく「日本一」のレベルに達しています。他の部署も作業が正確かつ迅速に行われ、競技時間が遅れることはなく、たとえ、トラブルが発生して中断を余儀なくされても、遅れた競技時間も素早く元に戻すという離れ業をすることもなげにやる力量を有しています。全国高校総体(2018)、全日本中学陸上(2020)、国民体育大会(2021)を契機に

国民体育大会(2021)を契機に

さらに磨きがかかっていくことで
しょう。

競技者に心地よい大会運営は競
技者の力量を最大限に発揮させる
ことでしょう。地元インターハイ
に向けて、県内各地ではトレーニ
ングに余念がありません。三重、
松阪商、宇治山田商、近大高専、
伊賀白鳳、四日市工を中心に有力

生徒が目白押しです。地元勢の活
躍は多くの方々に大きなエネル
ギーを伝えます。地元勢の勢いで思
いがけないヒーローが誕生すれば
大会は成功です。インターハイの
勢いはその後の大会（全日本中学
陸上、国民体育大会）に引き継が
れていきます。

8月6日を多くの方々と笑顔で迎
えることができますよう、これか
らどうぞよろしくお願いいたし
ます。



熊本全中において、男子棒高跳
の野呂仁人さん（玉城中）が第2
位、同じく池上陽向さん（多気中）
が第4位、女子砲丸投の岩本乙夏
さん（城田中）が第5位、女子
200mの魚住るりさん（西橋内
中）が第8位と3種目4名の選手
が入賞を果たしてくれました。こ
のように多くの選手が全国で活躍
できたことは、三重インターハイ
や三重国体に向けてとても良い刺
激になったと思います。

また、男子4×100mR(混)、

男子棒高跳、男女三段跳の4種目
において三重県中学新記録を樹立
してくれました。

全国ジュニアオリンピック大会
でも1・2年生種目を含め、4種
目の入賞を果たすことができ、次
年度の活躍が期待できる選手もた
くさん出てきました。

県強化合宿や練習会においても
活気のある練習ができ、来シーズ
ンの活躍を大いに期待できるもの
となりました。そしてU16ジュニ
ア研修合宿（東海ブロック）では
4県の強い選手が集まる中、選抜
された40名の選手はとても刺激に
なり、来年度の岡山全中に向けて
意識も高まったようです。

クラブチームで育てていただい
ている選手の活躍も多くなってい
ており、中学校とクラブチームが
うまく協力し合いながら、共に力
を合わせて選手が意欲的に活動で
きることを願います。

今年度は三重インターハイ、そ
して平成32年度は三重全中が開催
されます。それに向けても今年度
以上に全国での活躍、全体のレベ
ルアップを目指します。また、三
重国体に向けて指導者の育成にも
力を入れ取り組んでいきます。よ
り多くの中学生が陸上競技を好き
になり、将来全国や世界で活躍で
きる選手を発掘・育成していきたく
いと思っています。

平成29年度国体・都道府県対抗駅伝報告

平成29年度 第72回 国民体育大会（愛媛国体）

10月6日（金）～10日（火）愛媛県総合運動公園陸上競技場でおこなわれ、男子5種目・女子3種目（優勝2種目を含む）計8種目に入賞いたしました。

世界陸上ロンドン大会に出場した衛藤 昂選手（AGF）は成年男子走高跳に出場し、2位以下を寄せつけない貫禄ある跳躍で見事優勝。国体3連覇を達成いたしました。成年女子100mの名倉 千晃選手（NTN）は自己ベストを更新し、見事初優勝を果たしました。成年男子100mに出場した諏訪 達郎選手（NTN）、成年女子400mに出場した榎山 楓選手（NTN）、そして成年男子やり投げの中西 琢真選手（大阪体大）がそれぞれ入賞を果たしました。

少年においては、少年男子A棒高跳の野呂 惇人選手（伊勢高）が優勝争いを繰り広げ、見事第2位、少年男子Aハンマー投の前川 昂輝選手（久居）も第6位に入賞し、インターハイのリベンジを果たしました。また、少年B女子砲丸投に出場した床辺 彩乃選手（松阪商）が堂々とした試合運びを見せ、2年連続入賞となる第4位入賞を果たしました。

本年度は、天皇杯得点52点の第18位、皇后杯得点25点の第24位という結果でした。

皇后杯 第36回 都道府県対抗女子駅伝 第28位 2時間22分47秒

1区で荘司麻衣選手（デンソー）がトップから8秒差の8位でたすきをつなぐと、2区で本大会、現役ラストランとなる尾西美咲選手（積水化学）が冷静なレース運びでラスト1kmから抜けだし、4位まで順位を押し上げてくれました。3区の中学生の木村依愛選手（四日市メリノール学院）は、バスケットボール部で2年生ながら、前半から非常に積極的で、将来性を感じる走りを見せていただきました。

総合結果は第28位でしたが、中高生ともに2年生が中心で、来年度以降に期待のもてる大会となりました。

女子 平成30年1月14日 12時30分スタート 西京極陸上競技場発着							
総合 第28位 2時間22分47秒							
監督 若松 誠（デンソー） コーチ 古保 達也（津商高） 山本 顕（宇治山田高）							
区間	距離	名前	所属	記録	区間	通過	
1区	(6K)	荘司 麻衣	デンソー	19:37	8位	8位	
2区	(4K)	尾西 美咲	積水化学	12:45	5位	4位	
3区	(3K)	木村 依愛	四日市メリノール学院中・2年	10:05	33位	12位	
4区	(4K)	加藤 綾華	名城大・1年	14:03	33位	20位	
5区	(4.1075K)	北村 有	四日市高・2年	14:13	38位	24位	
6区	(4.0875K)	川北 陽菜	津商高・2年	13:46	28位	24位	
7区	(4K)	岡本 風布	津商高・2年	13:30	35位	25位	
8区	(3K)	森田日世莉	正和中・2年	11:07	38位	30位	
9区	(10K)	池内 彩乃	デンソー	33:41	26位	28位	
選手		正井 裕子	愛媛銀行 ※主将				
		小倉 知子	伊賀白鳳高・3年				
		久木 佑菜	津商高・2年				
		井山 一佳	一志中・2年				

天皇杯 第23回 都道府県対抗男子駅伝 第35位 2時間25分34秒

前半、宇留田竜希選手（伊賀白鳳高2年）、佐藤榛紀選手（正和中3年）が中位でレースを展開しましたが、その後少しずつ順位を下げ、最終的には総合35位という結果になりました。本年度は有力な実業団、大学生の選手が故障等で出場を見合わせ、本来の総合力を発揮できず、昨年の14位から大きく順位を下げてしまいました。

今後は軸となる実業団と高校の更なる充実を目指し、来年度以降に期待したいと思います。

男子 平成30年1月21日 12時30分スタート 広島市平和記念公園発着							
総合 第35位 2時間25分34秒							
監督 真内 明（NTN） コーチ 中武 隼一（伊賀白鳳高） 山本 顕（宇治山田高）							
区間	距離	名前	所属	記録	区間	通過	
1区	(7K)	宇留田竜希	伊賀白鳳高・2年	20:41	28位	28位	
2区	(3K)	佐藤 榛紀	正和中・3年	8:51	23位	26位	
3区	(8.5K)	櫻岡 駿	NTN	25:22	36位	32位	
4区	(5K)	中西 優汰	伊賀白鳳高・3年	15:06	27位	33位	
5区	(8.5K)	山本 恭澄	伊賀白鳳高・2年	26:27	38位	34位	
6区	(3K)	田中 励弥	川越中・3年	9:25	33位	35位	
7区	(13K)	山下 洸	NTN ※主将	39:42	35位	35位	
選手		塩澤 稀夕	東海大・1年				
		名村 樹哉	四日市工高・2年				
		竹野 連	大木中・2年				